



「運動会を通して学んだこと」



日野小学校 六年 松本 大輝

九月三十日、小学校生活最後の運動会が終わったしゅん間、ぼくは気持ちがかつと通りぬけるような気分になりました。

運動会が始まるまでは、しっかり応援ができるだろうか、組体操の技が成功できるだろうかとずっと考えていました。運動会が始まるとさらにきん張が高まりました。運動会が始まってすぐは、気持ちが重かったけれど、一つずつ成功していくごとに気持ちが軽くなり、終わったしゅん間気持ちがかつと通りぬけるような感覚になりました。

運動会の取り組みの中で、六年生だからこそ味わえた苦しさがありました。特に苦しさを味わったのは、応援を教える時です。まず夏休みに応援団を中心に集まって考えた応援を六年生に教えるだけでも、みんなに、「ここ、ちがうんちやう。」と言われることがありました。その時、まだまだ準備不足だと思いました。自分たちが替え歌の歌詞やふりつけをしつかり決めたと思っても、全然できていないことに気づきました。だけど、先生に「みんなに手伝ってもらい。」と言われ、みんなに手伝ってもらおうと前よりしつかり準備ができました。しかし、第一回目の

応援練習の時は、二つの部屋に分かれて練習していたので、教えるスピードが変わってしまいました。そこでぼく達は、よく相談をしました。

「一気にやるんじゃないかと、ちよつとずつ教えていこう。」と話し合い、教えるスピードを合わせていきました。そうすることによって、赤組みんなが応援を覚えてくれるスピードも速くなっていきました。ぼく達ももっと工夫することにしました。例えば、大声合戦をしてみんなの声が大きくなるようにしたり、六年生から笑顔で応援し、みんなに応援は楽しいことを伝えたりすることです。

応援の練習をすることによって、ぼくは、運動会と野球の試合はちよつと似ていることにも気づきました。運動会では応援を毎日しつかり練習している人としていない人との差がよくでていました。しつかり練習してきていない人は、全体練習の時でも大きな声は出さず、歌詞も覚えていませんでした。だけどしつかり練習している人は、大きな声も出せているし、歌詞も覚えられていました。

これを野球で例えると、素振りをしていないと、試合ではなかなかヒットが出ません。だけど、素振りを毎日していると試合でヒットを出すことができます。振った分だけ結果が出てくるのです。

このことから、野球と応援は一緒だとぼくは思っています。だから、応援だけでなくできることもできないことも、練習をしていけばおのず

と結果が出せると考えるようになりました。

運動会の中で、苦しい時があるからこそ、楽しいことやがんばれることがあるのだと思います。ぼくは、何でも全力で取り組みれば楽しくなるということを知りました。

今年の組体操では、次々と大技を成功させることができとても楽しい気持ちになりました。トラストフォールという技では、上に乗っている人を落とさないように、マットを使ってずっと練習をしていました。マットの練習からすごくきん張感をもって練習していたので、本番も失敗しませんでした。練習からがんばっていたら、本番でもがんばれるとぼくは思っています。演技の後、多くの人たちから大きな拍手をもらえたことも、自分の自信につながりました。

運動会で学んだ協力や団結することの大切さを、これからの学校生活や野球でも活かしていきたいです。そして、一人ではできないことも協力や団結することで乗りこえられることも、忘れずに過ごしていきたいです。

